

# 平和のカタチ

The Form of Peace

July 2 (Wed)–September 15 (Mon/Holiday)

平成26年 (2014) **7.2水**—**9.15月祝**

会場 2階 第3室



名井萬亀《初空襲》1943(昭和18)年

ムーミン展開催記念展示

# 自然に向き合う作者の眼

人は自然と対峙し、または共生する

Commemorate the Exhibition Moomini: Artist's Eye Faced the Nature  
- Human Confronts or Cohabits with Nature

July 2 (Wed)–September 15 (Mon/Holiday)

平成26年(2014)

**7.2水**—**9.15月祝** 会場 2階 第4室



荒川豊蔵《黄瀬戸竹花入》1967-68(昭和42-43)年

※金曜日は20:00まで開館延長あり  
※入館は閉館の30分前まで  
休館日: 月曜日(特別展会期中、祝日及び振替休日は開館)  
入館料: 一般 510(410)円、大学生 310(250)円  
高校生以下無料  
縮景園との共通券: 一般 610円、大学生350円  
※( )内は20名以上の団体



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車約20m
- 広島駅新幹線口から、ひろしまめいぶる〜ぶ(市内循環バス/9:00~17:30の間、毎時0分30分発。)  
「広島県立美術館前」下車(白島線沿い)



名勝「縮景園」とともに歩む アートの社  
**広島県立美術館**

Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22 TEL(082)221-6246  
http://www.hpam.jp/ FAX(082)223-1444

## 【HPAM(エイチパム)コレクション展】

広島県立美術館では、これまで「所蔵作品展」として開催してきた当館の所蔵作品展示について見直しを行い、平成26年4月から「HPAM(エイチパム)コレクション」展として一新しました。(HPAM(エイチパム)とは、広島県立美術館の英語表記「Hiroshima Prefectural Art Museum」の略称です。)



広島県立美術館の公式ロゴから新たに「HPAM(エイチパム)コレクション」展のロゴが誕生しました。

## 【平成26年度運営目標】

### 『美』の楽しさをやさしい気持ちでつたえる

当館の平成26年度の運営目標を「『美』の楽しさをやさしい気持ちでつたえる」として、お客様の視点に立って、当館のコレクションの美を楽しく、わかりやすくお伝えします。

県民の皆様にも、当館所蔵のコレクションの宝を再発見し、これまで以上に感動していただける展覧会をお届けするため様々な取り組みを行います。

## 【取組内容】

生まれ変わった「HPAM(エイチパム)コレクション展」で、  
私たちは「美」の楽しさをやさしい気持ちで伝えるために様々なことにチャレンジします。

- 展覧会の企画意図や展示作品等、内容がわかる鑑賞ガイドの作成・配付を行います。
- 学芸員によるキュレーターズトークやワークショップなど、より充実したイベントをお届けします
- ギャラリーガイドを毎日開催！作品をより深く知っていただくために、当館では、毎日、広島県立美術館友の会によるギャラリーガイドを行います。  
(平日:14:00～、土・日・祝日は11:00及び14:00～※休館日を除く)
- 「学芸員のお奨めの一点」をホームページ及びプレスリリースにて随時御紹介！
- 会場内での携帯電話やスマートフォン、iPad等のタブレット端末機による検索を自由に  
していただけます。気になる作品情報は、その場でチェック！
- 作品との写真撮影もOK！お気に入りの作品の前で記念撮影等もしていただけます。  
※一部作品に限ります。



このマークが掲示されている作品は撮影可能です。

## 【「平和のカタチ」について】

1914年6月、オーストリア＝ハンガリー帝国の皇位継承者フランツ・フェルディナント大公夫妻が銃撃されるというサラエボ事件を契機に、ヨーロッパ各国の軍部は総動員を発令し、第一次世界大戦が勃発—今年で、開戦から100年が経過しました。

芸術家たちは、ヨーロッパ全域を巻き込んだ人類初の世界大戦の最中にありながら、時代、社会そして自己を見つめ、作品を生み出し続けました。続く戦後では、戦争という時代を顧みる行為から新たな芸術を創造しています。それらの表現は、戦争を直接的に描くばかりでなく、内面の混沌をも表現し、史料だけでは計り知れない戦争の衝撃と平和への思いを伝えています。

本展では、当館のコレクションを中心に両大戦間における西洋美術、第二次世界大戦下の日本美術からヒロシマと原爆の悲劇を伝える作品含む戦後に至るまでの表現を辿り、多様な「平和のカタチ」を展覧します。

## 【内容紹介】

### ○両大戦間—西洋美術を中心に

第一次世界大戦—機関銃の運用や塹壕戦が主流となる中で戦争は長期化し、それまでの常識を超える甚大な被害がもたらされます。美術界では、急激に変化する価値観の中、相反する様々な芸術の傾向が同時に噴出しています。

本章では、ジョージ・グロス、クルト・シュヴィッターズ、ヘンリー・ムーアらの作品をはじめ、第二次世界大戦下において、ナチスの近代美術に対する芸術観によって、弾圧を余儀なくされた作家の作品たちをご紹介します。

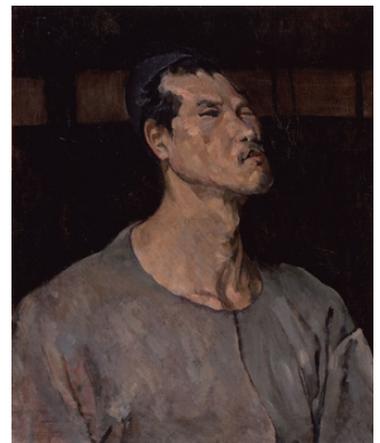


クルト・シュヴィッターズ  
《メルツ394、ピナコテーク》  
1922年

### ○第二次世界大戦下の日本の美術

第二次世界大戦は、1939年9月のドイツ軍によるポーランド侵攻、ソ連軍による侵攻、仏英による対独宣戦布告によってヨーロッパ戦争として始まり、1941年12月の日本と米英との開戦によって、全世界に拡大します。

本章では、巖光《帽子をかむる自画像》をはじめ、同じく戦時下に描かれた寺田政明《さかな(悲哀)》、松本竣介《ニコライ堂》、さらには同時代の工芸作品の中から松田権六、清水南山の作品を展示し、戦時下の表現について、自画像、静物画さらに風景画、工芸作品の4つの視点からご紹介します。



巖光《帽子をかむる自画像》  
1943(昭和18)年

## ○ヒロシマと原爆—悲劇を表現するということ

1945年8月6日—人類初となる原子爆弾が投下され、広島は未曾有の惨状を経験します。戦後、芸術家たちは心に刻まれた原爆の記憶を様々なカタチで私たちに伝えています。

本章では、当館の中でも重要なコレクションの1つである平山郁夫(1930-2009)《広島生変図》(8月7日まで展示)をはじめ、殿敷侃、大木茂ら、被爆体験をもつ作家を中心に、芸術家たちが長い時間をかけて内在化し表現してきた、ヒロシマおよび原爆に関する作品をご紹介します。



平山郁夫《広島生変図》1979(昭和54)年  
8月7日まで展示

## ○戦後という表現—平和のカタチ

戦後という時代は、戦争による衝撃や記憶を何らかのカタチで表現し、伝えようとした時代。一方で、アメリカ軍の水素爆弾実験やチェルノブイリ原子力発電所事故は、原爆という悲劇を繰り返すのではないかという恐怖を呼び起こし、そこから新たな作品たちが生まれました。

本章では、戦争の影を間接的に伝える作品から、戦争や原子力に対し警鐘を鳴らす作品まで展示し、芸術家たちが多様に伝えようとする「平和のカタチ」を展覧します。

また、本展では特別出品として、言葉を超えて反核を訴えようと広島国際文化財団と日本グラフィック・デザイナー協会が連携して始めた反核ヒロシマキャンペーン「ヒロシマ・アピールズ」の第一作である、亀倉雄策(1915-1997)《ヒロシマ・アピールズ(燃え落ちる蝶)》と横山明(1938-)による原画を展示します。



鯉江良二《チェルノブイリシリーズ》  
1989(平成元)-1994(平成6)年

**【関連イベント】** ※都合により展示内容やイベント内容に変更が生じる場合があります。

### トークイベント

場 所:2階展示室

参加料:無料 ※要入館券(高校生以下無料)、事前申込不要

#### おとな向けギャラリートーク「戦時下から戦後。美術から見る平和のカタチ」

日時:8月2日(土) 13:00~(30分程度)

講師:山本恵子(当館指定管理者学芸員)

対象:大人

#### 子ども向けギャラリートーク「平和ってなんだろう?みんなで感じる平和のカタチ」

日時:8月16日(土) 13:00~(30分程度)

講師:山本恵子(当館指定管理者学芸員)

対象:小学1年生~6年生まで

**平和のカタチ**

The Form of Peace

## 【「ムーミン展開催記念展示 自然に向き合う作者の眼 ～人は自然と対峙し、または共生する～」について】

今回の展示では、「トーベ・ヤンソン生誕100年記念 MOOMIN! ムーミン展」の開催を記念して、ムーミン展のテーマのひとつである「自然との共生」に着目します。

自然に向かい合う中で生まれてきたもの、炎の力を借りて生まれた優品、芸術家が出会った世界の海、針と糸で表現されたシルクロードの自然といった4つのテーマから当館のコレクションを展示します。

自然と向き合い、自然の大きな力を利用し、自然とともに生きていく人間から生まれた美術のさまざまな表現をお楽しみください。

### 【内容紹介】

#### 自然に向かい合う中で生まれてきたもの

人が自然に対峙するときに見えるものは、その時によって、あるいは人によって異なります。

本章では、フィンランド生まれの「ムーミン童話」に数多く登場する「雪」をモチーフにした大島祥丘《段圍宿雪》、太田忠《雪景》。『ムーミンパパ海へいく』などの物語に代表される荒れくるう海、ありえない魚や動物、怪物を連想させる鶴岡政男《海のあやかし》、名井萬亀《さんまの怒り》などを展示します。

その他、荒川豊蔵は《黄瀬戸竹花入》など自然そのままの姿を写すのではなく、ほどよい強調と省略によって、その魅力を再発見しようとする作品、自然をやきものによって抽象化した作品などもご紹介します。

作者が自然に向き合うなかで生まれてきた、様々な表現をお楽しみください。



荒川豊蔵《黄瀬戸竹花入》  
1967-68 (昭和42-43)年

#### ○炎の力を借りて生まれた優品

美術品は人の手で作られるものながら、自然の力を大いに借りて初めて完成するものもあります。陶磁器は、最後には陶工や陶芸家の手を離れ、窯の火に委ねられて新たな生を受けます。

当館は3点の柿右衛門様式の輸出磁器を所蔵しています。伊万里焼は17世紀初頭から佐賀県有田町一帯で作られるようになった磁器の総称です。その名は製品の多くが近隣の伊万里港から出荷されたことに由来しています。伊万里焼は江戸時代中期からオランダ東インド会社を通じてヨーロッパ等へ盛んに輸出され、マイセンをはじめヨーロッパの磁器焼成に大きな影響を与えました。

炎という自然の力を借りて生まれた、当館が誇る優品をじっくりとご堪能ください。



重要文化財  
伊万里色絵花卉文輪花鉢  
(柿右衛門様式)  
江戸時代、17世紀後半

## ○芸術家が出会った世界の海

『ムーミンパパ海へいく』では、ムーミンパパは、幼少期を過ごした孤児院を飛び出して、世界各地を旅しました。旅は、人を多面的に成長させてくれます。

主にイギリスで絵画を学んだ南薫造は、ヨーロッパはもとより、往復の船旅で出会った人や風景を水彩の軽やかな筆致で描きとめました。児玉希望は、地中海各地の水辺を日本画家の視線で捉えています。

ムーミンパパの旅に思いを馳せながら、芸術家たちが出会った世界の海の情景をお楽しみください。



児玉希望《カンヌ》1957(昭和32)年  
7月29日から展示

## ○針と糸で表現されたシルクロードの自然

古代以来、人やモノが行き交ったシルクロードでは、厳しい自然の中で多種多様な美術品が生まれました。

シルクロードの中心部、現在のウズベキスタンやタジキスタンあたりでは、スザニと呼ばれる大型の刺繍布が制作されてきました。スザニとは、ペルシア語のスザン(「針」の意味)から派生した言葉で、刺繍したもののすなわち刺繍布を示します。

花嫁のために一族の女性たちが作り上げた作品、お祈り用敷布として礼拝時のために作られ代々受け

継がれてきた作品など、そこには光と生命の輝きが表現され、同時に人々のこころも縫いこまれているのです。本章では、シルクロードの人々が自然と向き合う中で表現してきた作品の数々をご紹介します。



タシケント(現ウズベキスタン)《刺繍布(スザニ)》  
19世紀後半

**【関連イベント】** ※都合により展示内容やイベント内容に変更が生じる場合があります。

**ワークショップ「アーティストは観察の達人？観察して描いてみよう。」**

日 時:7月20日(日) 10:30～(90分程度)

対 象:4歳～小学6年生まで

場 所:2階ロビー

講 師:山本恵子(当館指定管理者学芸員)

定 員:15名

申込方法:ワークショップ名、参加者・保護者のお名前、年齢(こどものみ)、電話番号を添えて、お電話にてお申込みください。

※入館券不要(高校生以下無料)、要事前申込

※未就学児の方には保護者の付添をお願いします。

**【共通関連イベント】** ※都合により展示内容やイベント内容に変更が生じる場合があります。

## 友の会ボランティアガイド

当館友の会ボランティアガイドが、HPAMコレクション展についてわかりやすく解説します。

日時: 平日14:00~/土日祝11:00~、14:00~(1時間程度)

場所: 2階展示室

参加料: 無料 ※要入館券(高校生以下無料)、事前申込不要

※ただし、9月6日14:00の回は休み

※毎月第4土曜日11:00~は、小学校及び特別支援学校小学部第5-6学年の児童と保護者の皆様を主な対象に、“親子ギャラリートーク”として実施します。(30分~1時間程度)

## ウェブレポーター大募集

日時: 7月4日(金) 17:00~19:30

受付: 2階ロビー

場所: 2階展示室

参加料: 無料

対象: ホームページ、ブログ、ツイッター、フェイスブックなどで情報配信されている一般の方

特典: 実施当日限り、本展にご招待

※要入館券(高校生以下無料)、事前申込不要

---

## 【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も**本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。**

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

## 問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. keiko\_yamamoto@nomurakougei.co.jp (山本宛)

担当 学芸課 福田浩子

事業推進課 山本恵子